

vol. 275

Autumn 2023

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

# Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

## Contents

02 理系女性育成啓発研究所の活動紹介  
気がつけば、サイエンスの世界

06 学生のアクティビティ  
微音祭実行委員会

08 教員紹介  
五十嵐 悠紀  
基幹研究院自然科学系 准教授

09 卒業生紹介  
江田 真純 さん  
生活科学部食物栄養学科 卒業

10 附属学校園からのお知らせ  
附属幼稚園

# 理系女性 育成啓発研究所の 活動紹介

2022年4月に設置された総合開発研究機構に属する研究所の一つである、お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所についてご紹介します。



気がつけば、  
サイエンスの世界

微音堂（きいんどう）と大学本館



お茶の水女子大学 1932年勸業堂 竣工時

H P は  
こちら



お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所は2022年4月に設置された総合開発研究機構に属する研究所の一つです。研究所の前身は、2015年に奈良女子大学と連携して設置された理系女性教育開発共同機構です。理系女性教育開発共同機構の7年間に渡る活動で蓄積された成果をさらに発展させ、女子学生・生徒の理工系分野の進路選択促進及び理工系人材の育成に資するための活動を行なっています。大学学部への女性入学者に占める理工系分野の女性入学者の割合は、OECDの平均値は15%ですが、日本は7%に留まっています(出典:我が国の未来をけん引する大学等と社会のあり方について(第一次提言)令和4年5月10日教育未来創造会議参考資料(参考データ集)、P40)。社会で活躍する理工系女性人材を増やすことは、DE&I社会の実現に向けて、重要な課題です。理工系女性の裾野を広げるための取組の一つが、女子生徒の理工系への進路選択の支援です。

## 女子中高生向けの イベント

理系女性育成啓発研究所では、国立研究開発法人科学技術振興機構次世代人材育成事業

業の一つである、令和5年度女子中高生の理系進路選択支援プログラムに採択され、「理系フロントランナー・シーズ発掘・育成・強化プログラム」事業を実施しています(図1)。進路選択を意識していない女子中学生を主な対象とする理系女性シーズ発掘の取り組みを充実させ、理系分野を学ぶ楽しさを発信します。理系への興味・関心が芽生えた層に対しては、理系進学へのモチベーションの増

大を図る多様な取組を提供することで、さらに理系進学への理解を深めていただきます。理系分野で学んだ後のキャリアパスを提示します。研究所のスタッフと共に、理系分野を専攻する本学の大学生・大学院生(サイエンス・アシスタント)が活躍し、女子中高生にとって気軽に質問しやすい環境を整えます。

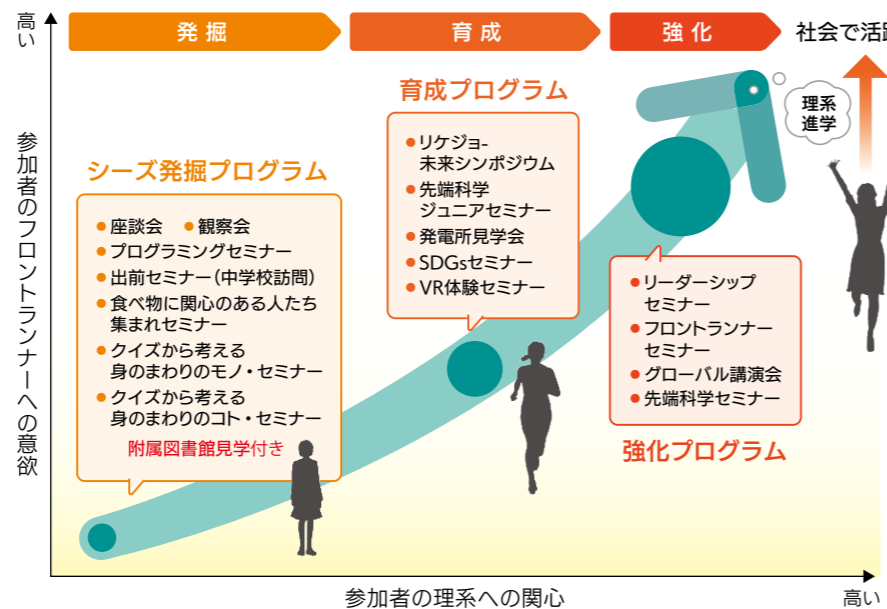


図1 令和5年度理系フロントランナー・シーズ発掘・育成・強化プログラム概要 (JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム)

## クイズから考える 身のまわりのモノ・セミナー (附属図書館見学付き)

2023年7月に開催したこのセミナーは身のまわりのモノからサイエンスの世界に参加者を誘うために企画しました。サイエンス・アシスタントが「食べ物」「動物」「植物」「環境」「色・音・香り」の5つのテーマから成る15のクイズを出題し、3択形式で参加者が回答します。楽しみながらサイエンスを学んだ後は、大学院生と参加者どうしが自由に話す時間です。初対面なのに、どのグループでも話が弾みました。最後に、附属図書館を見学しました。参加者は、大学生・大学院生が学修に利用している空間の広さを目の当たりにし、多くの蔵書を見ることで、何年後の大学生活のイメージを膨らませることができたのではないかと思います。



### Voice

濱下 果帆 さん

大学院人間文化創成科学研究科  
ライフサイエンス専攻博士前期課程2年

中学1-3年生向けの問題を考えるにあたり、テーマ設定や難易度の調節に苦戦しましたが、どの学年の参加者にも楽しんで回答していただけたようでした。将来の文理選択を控える中学生に、理系分野における学びの楽しさが伝わっていたら嬉しく思います。また私自身もサイエンスの魅力を再認識し、フリートークでは参加者のお話からたくさんの刺激をもらうなど、大変充実した時間を過ごさせていただきました。

赤松 利恵 先生

附属図書館長  
基幹研究院自然科学系 教授

「本が好き」というと、「文系」と思われがちですが、理系分野の勉強や研究にも、読書は欠かせません。お茶の水女子大学の附属図書館には、現在、67万冊以上の蔵書と9,000誌以上の学術雑誌を備えています。また、本を読んだり、勉強したりするスペースも用意しています。理系に進学するみなさんにも、たくさんの本に触れ、多くのことを学んでいただきたいと思います。

## 中学生対象の取組をのぞいてみよう!

## 陸の植物観察会

2023年8月に、陸の植物観察会を開催しました。生物を分類するための基本的な単位である「種」の概念や、種の見分け方について、岩崎先生から講義を受けた後に、キャンパス内で植物を観察・採集を行いました。実験室に持ち帰った植物をさらに詳しく観察し、顕微鏡を使って種を判別しました。目標は1人2種以上の植物を判別することでしたが、参加者のほとんどが2種以上の植物の種を調べることができました。その後、植物の細胞の特徴や分子生物学実験の理論についての講義を受けた後に、参加者が採集した植物からDNAを取り出す実験を行いました。

### Voice

岩崎 貴也 先生

基幹研究院自然科学系 講師

今回の観察会では、最初に野外での植物の採集・同定を通じて、植物の観察方法を実際に体験しながら学んでもらいました。これにより、参加者が従来の「緑の葉っぱ」の単純なイメージから抜け出し、植物の多様性に目を向けるきっかけにできたのではないかと思います。さらに、今回は後半のプログラムにいくつかの新しいアイデアを取り入れました。被子植物が進化してきた進化の道筋を示す系統樹を大判ポスターとして用意し、前半で同定した植物をその系統樹に配置した上で、参加者同士で植物のかたちの変化について議論してもらいました。最後に、身近な道具ではなく、大学の本格的な実験設備・機器を使って植物からDNAを取り出す分子生物学の実験にも挑戦してもらいました。参加者が自分で野外から採集し、同定した植物について、進化

の道筋を考えて深く観察し、さらに実験でDNA抽出を行うという研究に近いプロセスを体験することで、理系研究の雰囲気やうまく感じてもらえたのではないかと思います。

佐川 千理 さん

理学部生物学科4年

植物の観察・判別や分子生物学実験のサポートを担当しました。生徒たちは葉のかたちに注目して真剣に観察している様子で、正確に種が判別できたときはとても嬉しそうでした。講義の後半では手順の複雑な分子実験に取り組みましたが、うまく上澄みを吸い取ってDNAを抽出することができていました。植物のおもしろさを感じていただけるような3時間になったのではないかと思います。

須賀 潮里 さん

大学院人間文化創成科学研究科  
ライフサイエンス専攻博士前期課程2年

盛りだくさんの内容で、受講していた生徒たちが楽しそうに観察・実験を行っていたのが印象的でした。また、観察会の後に熱心に質問されるなど、保護者の方にも関心を強く持っていただいたことを嬉しく思いました。私自身も様々な植物に触れ、新しい知識を得ることができました。実のある時間となりました。



### リケジョ - 未来シンポジウム

2015年から定期的に理系女性ロールモデル講演会である「リケジョ-未来シンポジウム」を開催してきました。2023年8月までにお茶の水女子大学で40回開催し、参加者累計は4,000人を超えました。この他に、東京以外の地域で、対面で8回開催しています。コロナ禍ではオンライン開催に切り替えましたが、現在は、ハイブリッド形式で開催し、遠方からの参加者も増えてきました。女子中高生は進路を決めるにあたり、大学の理工系分野で学び、社会で活躍している身近な先輩の経験を聞きたがっています。このシンポジウムでは、理系に進学したきっかけ、学生時代のこと、現在の仕事についてお話しいたします。8月27日の第40回リケジョ-未来シンポジウムでは、物理学および心理学を学んだ本学卒業生2名にご登壇いただきました。



### Voice

#### 保坂 玲さん

物理学を学んだ先輩、株式会社デンソー勤務

第1回のリケジョ-未来シンポジウムを学生スタッフとしてお手伝いしたので、講演者として戻ってきたことを感慨深く思いました。物理学や、メーカーという仕事の魅力を、直接、中高生や保護者の皆様に伝えることができてよかったです。

#### 古屋 桃香さん

心理学を学んだ先輩、文部科学省勤務

普段、中高生や保護者の方とお話しする機会がないため、大変貴重な機会であり、楽しかったです。実際にやってみて初めて分かることも多いと思います。今回の講演が、みなさんの進路選択と興味への挑戦の後押しになったら嬉しいです。



### 附属学校と連携した取組

研究所では附属学校と連携した取組も行っています。2023年8月には附属高校生対象の製鉄所見学会、附属中学生対象の製鉄所見学会と研究施設見学会を実施しました。その中から8月7日に実施した東京大学動物医療センター見学会の様子を紹介します。

### Voice

#### 相川 京子 先生

附属中学校長、基幹研究院自然科学系 教授

8月7日に附属中学校生33名(1年から3年生の男女生徒)と東京大学農学部附属動物医療センター(東京大学弥生キャンパス内)を訪れました。獣医学部の米澤智洋准教授(獣医臨床病理学)、中川貴之准教授(獣医外科学)のご指導とご協力をいただき、動物医療センター内の見学会と、獣医学の研究や獣医師の仕事に関するお話をうかがいました。センター内では実際に診察の現場を見ることができ、言葉が通じない動物の容態を獣医師はどのようにして知るのが、診察の仕方を知る機会となりました。検査室や測定室、MRI/CT室で画像診断や成分分析の機器・装置類の説明を受けたり、検査中の血液試料をモニター上で見る事ができました。

様々な形と大きさの血液細胞について、生徒からは具体的な質問が出ていました。その後、動物医療に関わる4種類の実習を体験しました。模型を使って動物の触診の仕方を知ったり、心臓マッサージの指導を受けた後、一人一人が実際に試みることで力加減を体感することができました。また、牛を扱う心得を教わり、誘導する際のかけ縄のむすび方を習得できた時の生徒の表情はとても嬉しそうでした。今回の見学会を通じて、身近な動物の治療をすることだけでなく、獣医師には行政や食品製造等に関わる幅広い種類の仕事があることを知ることができました。そして獣医師を目指した動機や研究の成果を製品開発につなげた例など、先生方からの様々な話に、深い関心を寄せる生徒の様子がありました。

### 参加者の感想

(事後アンケートから)「時間があっという間だった」「直接話を聞き、見て体験することで理解が深まった」「普段経験できないことができた」という感想が多くありました。また、「獣医学を学んでどのような道に進めるのか、どのような研究があるのかなど、進路に関する事を考える際に活かすことができると思った」「スタッフに女性の方が多く、理系女子ってかっこいいな」と思い、理系の学習をもう少し頑張ろうと思えた。「実際に体験することで理解や関心が深まるのがわかり、今後、様々なことを見学したい意欲が高まった。将来の進路についても考え始めようと思った」「獣医師への憧れがさらに強くなったが、それと同時に獣医師の大変さも強く感じた」などがありました。

### 理系から広がる世界

この冊子に登場する方々は、当研究所主催「リケジョ-未来シンポジウム」で経験を語っていただいた講演者です。理系進学を志す(あるいは既に理系に進学している)皆さまを応援したくて、登壇し、自らの経験を語り、最高のエールを贈ってくれました。その応援を凝縮したのが、この冊子です。これからの日本では、理系女性人材の活躍が期待されています。メッセージが皆さまの心に届き、将来を考える一歩を踏み出すきっかけとなることを願っています。



### 附属幼稚園 保護者対象セミナー

幼児期からサイエンスに触れ、興味関心を育むには、保護者の影響が大きいと言えます。そのため、まずは保護者がサイエンスに親しむ機会の提供を目的として、年2回実施しています。コロナ禍の間は、自宅で子どもと一緒に楽しめる簡単な実験を動画配信しました。今年は久しぶりに対面で、子どものお迎えまでの時間を利用し、学内で実験を行いました。



### イノベーション 啓発冊子の発行

中高生にイノベーションに対する理解を深めてもらうことを目的として、イノベーション啓発冊子を発行しています。2023年9月には文理融合の先に続くイノベーションを考える第3巻を発行しました。2024年4月に本学に新設する共創工学部の伊藤貴之先生と理志美沙先生の対談を掲載しています。



詳細はこちら



### 情報系教材の開発

現代社会においてICT教育の重要性は高まるばかりです。研究所ではこれまでに5つの情報系の教育プログラムを開発し、公開しています。たとえば、「どうぶつ並べ替えアプリでアルゴリズムを学ぼう」は、画面上に表示される動物を左から背の小さい順に並べ替えるアルゴリズムを学ぶ内容です。実際に生徒が操作することで、楽しみながら論理的思考力を向上させることができます。



何回で並び替えることができるかな



理系女性育成啓発研究所の活動は、教職員、在学生、卒業生の皆さまの惜しみないご協力によって支えられています。いつもありがとうございます。また、中高生だけでなく大学生・大学院生も楽しめる公開イベントも多いので、興味のある方は、ぜひご参加ください。

### 所長からのメッセージ

#### 加藤 美砂子

理事 副学長 理系女性育成啓発研究所長



# 学生の アクティビティ

テーマ「灯(ともしび)」について教えてください!



おすすめ企画が知りたいです!

徴音祭の中でも大きな特徴をもつ企画が、「水コン」です。これは、徴音祭におけるミスコンにあたりますが、いわゆる「ミスコン」ではありません。外見のみに注目するのではなく、ファイナリストそれぞれの内面まで注目いただけるものとなるよう、公式SNSを中心に水コン担当が工夫を凝らしています。

また、徴音祭公式キャラクターのきいちゃんが、今年度はさまざまな場所に出没します。オープニングなど節目となる場所だけでなく、今年度は限定きいちゃんスイーツもあるかも…!

その他、他大学の学園祭などのコラボなど新しい企画だけではなく、模擬授業やキャンパスツアー、歌姫やゲスト企画など例年の企画もさらに「らしさ」を出し、楽しんでいただける企画になるよう、準備に奔走中です!

委員企画以外の参加団体のみなさまの企画も、4年ぶりの対面開催ということもあり、また一段と輝きを放っています。ぜひ、当日キャンパスへ足をお運びください!

第74回徴音祭は、2023年11月11日(土)・12日(日)に行われます。今年度のテーマは『灯(ともしび)』です。

賑わい、明るさ、温かさ、そして一人一人が灯火のように輝いて徴音祭を明るく照らしてほしい。そんな思いが、『灯』というテーマには込められています。『ともしび』という読み方は、「私たちが徴音祭に光を灯す」という実行委員一同の決意を表したものです。第74回徴音祭実行委員会の挑戦と、コロナ明けに向かう新しい時代への期待が秘められています。

ロゴのモチーフは、徴音祭に参加するすべての人、一人一人が輝くことで生まれた光と「灯」です。また、漢字一文字という日本的な雰囲気とお茶大の伝統を表現するために、暖色と紫色を組み合わせました。

情熱と活気で徴音祭に光を灯し、さらなる盛り上がりを見せる徴音祭をお届けします。



# お茶の水女子大学 徴音祭

11月11日(土)・12日(日)に開催される学園祭「徴音祭」について、徴音祭実行委員の4人にインタビューをしてきました!

— 副委員長 —  
ふたまた はるか  
**二保 陽香さん**  
文教育学部 人文科学科  
地理学コース3年

— 委員長 —  
おがわ ゆうな  
**小川 祐奈さん**  
生活科学部  
心理学科3年

— 副委員長 —  
ふくみつ あおい  
**福満 碧さん**  
文教育学部 言語文化学科  
日本語・日本文学コース3年

— 副委員長 —  
かわうち ゆなこ  
**河内 宥菜子さん**  
文教育学部 人間社会学科  
社会学コース3年



活動に際して、心がけていることはありますか?

徴音祭は、「お茶の水女子大学」の「学園祭」です。お茶大生が自分たちの個性を輝かせ、さまざまな背景をもつ多くの方にその雰囲気を感じていただけて初めて、徴音祭であると考えています。

その考えのもと、徴音祭実行委員会、参加団体の皆さま共に、より自分たちの雰囲気を伝えることができる企画となるよう、試行錯誤してきました。

また今年度は、地域の方々との関わりを大切に活動してきました。地域の小学校のおまつりを一緒に企画したり、地域のおまつりのお手伝いに伺ったりする中で、さまざまな世代の多くの方と関わることができました。徴音祭の存在を知っていただき身近に思ってもらうだけではなく、実際に周囲の支えがあって大学や学園祭が成り立っていることを実感する大切な機会になりました。ひとつ、地域の輪に入る大きな1歩を踏むことができたのではないかと考えています。

最後にメッセージをお願いします!

4年ぶりの対面開催が実現する今年度、4年前に「戻る」のではなく、新たなあり方を模索してきました。オンラインの要素も積極的に取り入れながら、どの世代も楽しむことのできる、私たち色の「第74回徴音祭」をつくりあげていきます。

徴音祭は、徴音祭実行委員会の力だけで成り立つものではなく、決してありません。お茶大生の皆さまはもちろん、その他協力して下さるさまざまな大学の方、職員の皆さま、附属校の方々や地域の方々、ご来場いただいた皆さま、そしてこれまで73回もの徴音祭を支えてきたすべての先輩方とその歴史、一つ一つが『灯』となり、第74回徴音祭が輝くことができます。

その中の、他に類を見ない1つの『灯』として、一緒に第74回徴音祭をつくりあげてくださると嬉しいです。皆さまのご参加、ご来場を、委員一同心よりお待ちしております。

各種SNSなの~!  
アクセスしてほしいの~!



五十嵐 悠紀  
先生

基幹研究院 自然科学系 准教授

## Profile

神奈川県出身。お茶の水女子大学理学部情報科学科を卒業後、東京大学大学院に進学し、博士(工学)の学位を取得。日本学術振興会特別研究員、明治大学総合数理学部専任講師・准教授を経て、2022年4月に本学着任。



Yuki Igarashi

様々な分野に

関係している情報科学

## Q1 ご専門の研究について、お話を聞かせてください。

私の専門分野は「ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)」という分野です。人間がコンピュータとやりとりをするためには欠かせないのがインタフェース。みなさんがスマホや、様々な機器、家電を使っている中で、これは使いにくいと思うものはありませんか。インタフェース次第で、使いやすくも使いづらくもなるのですが、人間にとって使いやすいインタフェースや新しいインタフェースを考えるのがこの分野です。

昨年お茶大に着任してからは、ユビキタスコンピューティング実験住宅「OCHA HOUSE(お茶ハウス)」の管理も引き継ぎました。住宅環境の中で「あったらいいな、便利だな」という未来のインタフェースを学生さんと一緒に考えて、実験・実証しています。

## Q2 ご専門を選択した経緯をお聞かせください。

私がこれまでメインで行ってきた研究の1つに手芸と情報科学を組み合わせた「手芸設計支援」があります。手芸は制作キットを使って楽しむ人は多いですが、オリジナルデザインで作

るためには経験や知識が必要で、初心者には難しいのが現状です。私はコンピュータグラフィックス(CG)のモデリングとシミュレーションを使って、誰でも簡単にオリジナル手芸作品を設計できるようにしました。きっかけは、学部4年の時にCGの国際会議で発表されたペーパーラフトの論文を読んだこと。手芸が好きな私は「CGで手芸の世界を変えたい!」と思い、ぬいぐるみ、あみぐるみ、ビーズデザイン、ステンシル...といった手芸を対象に研究してきた結果、今ではライフワークの1つになりました。

従来の手芸は人の経験則でデザインされていることが多いですが、ぬいぐるみは可展面というガウス曲率がゼロの面の集合で作られていますし、ビーズ作家さんが試行錯誤でデザインしたビーズ作品もよく観察すると1本のテグスで作られている、すなわち一筆書きができる「オイラグラフ構造」が隠れています。そういった一見、数学や情報科学と関係がなさそうな「手芸」の中にコンピュータで解けるような理論が隠されていることに魅力を感じ、この分野を突き進んできました。アウトリーチ活動として子どもたちにオリジナルデザインの手芸作品をデザインして制作してもらうワークショップも開催しています。子どもたちが目を輝かせてくれる瞬間も楽しさを感じます。

## Q3 お茶大生へのメッセージをお願いします。

手芸と情報科学。私が大学の学部を選ぶときには、分野がかけ離れたものに思っていましたが、今は両方を組み合わせた研究に取り組んでいます。理系、文系と自らで境界線を引いてしまわずに、分野を融合することで自分にしかできない分野を切り拓くことができるかもしれません。お茶大の魅力の1つに、幅広い分野の先生方・研究者たちが1つのキャンパスの中にあることが挙げられます。情報科学は、情報科学という学問自体の面白さに加えて、他の分野とのコラボレーションの可能性も多くあります。手芸だけでなく、音楽、スポーツ、医療、介護、教育、様々な分野に情報科学のアルゴリズムや技術が多く貢献しています。みなさんの好きな分野を探究するのに情報科学がお役にたつかもしれません。理学部の人はもちろん、他学部の人ともコラボレーションできたらうれしいと思っていますので、気になることがあれば是非遊びに来てください。

担当:工藤 和恵  
基幹研究院自然科学系 准教授

## Q1 管理栄養士として、現在どのようなお仕事をなさっておられるのですか。

今の勤務先は、認定栄養ケア・ステーションほほえみーるという地域の管理栄養士の拠点のような場所と、そこと連携している薬局です。認定栄養ケア・ステーションも薬局もまだまだ発展途上のフィールドであるため、1年目の頃から試行錯誤しながら色々なことに挑戦させていただいています。私の主な業務は、ふじみ野市からの依頼で、老人会などの地域の集まりの場や、市が開催する講座で講師をすること、インターンシップ、採用です。他にも、依頼があれば薬局に来る患者様の栄養指導をしたり、薬局に来られない方にはおうちに伺って栄養指導をしたり(在宅訪問)もしています。また、来年から薬局の隣のクリニックと心臓リハビリテーションというものを一緒にやっていく計画があり、そのための準備もしています。

発展途上のフィールドで仕事をしているので、何を目標して、どんなことをすべきかは自分で考える必要があります。なかなか大変な面もありますが、「もっとこうしたら良くなるのではないか」「患者様や他のスタッフのためになるのではないか」と思ったときに、背中を押してもらえ環境で仕事ができるのは、得がたいことだと感じています。

## Q2 学生時代の思い出のエピソードはありますか。

大学4年生から修士2年までの、研究室生活がとても大きかったです。先生や先輩方がとても面倒見が良く、自分一人で抱え込まず、必要に応じて誰かを頼る、相談することが上手になれたと思います。また、研究室運営のための係などもしっかり決まっていた、それぞれで自分の役割を果たしながら、必要に応じて報連相(報告・連絡・相談)を行い、他の人に協力をお願いする、といった経験ができました。そして、自然と自分がしてもらったことを後輩に返そうとすることで、後輩の指導も学ぶことができました。大学を卒業した後も、先生やOGの皆さまにはお世話になっていて、分からないことを相談させていただいたり、インターンシップの周知にご協力いただいたりしています。研究や講義、学会、勉強会以外にも、研究室で経験できたことすべてが、今の仕事につながっています。

やっておけばよかったこととしては、学科の必修が本格的に始まる前の、低学年の間に現場を体験できる機会を持つべきだったと感じています。自分が学ぶことがどう現場につながるのか、自分が将来どんなことをしたくて、そのためには今何をしなければ良いかを具体的に考えるために、必要だったと思います。ただ漠然と将来のことを考えるのはなかなか難しいですが、

1つでも具体的な働き方が分かれば、そこと比較することで、他の業界のことも理解しやすくなります。そう考えるからこそ、自分が学生のうちに知りたかったことを、インターンシップでは伝えられるように努めています。

## Q3 現役のお茶大生に向けて、メッセージをお願いします。



ぜひ普段から、自分のやりたいことや好きなこと、得意なこと、意識してみたいと思います。決して難しいことではなく、普段の講義やグループワーク、バイト、友達と遊んだりするときに、自分と周りの違いを意識するだけで十分です。特に長所や特技などは、自分にとっては当たり前前にできていることなので、注意深くならなければ意外に気づけないものです。お茶大生は、とても真面目で謙虚で、自分のもっている力を過小評価しがちなのではないかと感じます。みなさんが学生生活を通して、自分の良いところをたくさん見つけられると、嬉しく思います。

担当:西村 純子  
基幹研究院人間科学系教授卒業生  
紹介

Interview

江田 真純  
さん

認定栄養ケア・ステーションほほえみーる

## Profile

2020年3月、生活科学部食物栄養学科卒業。2022年3月、人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻食品栄養科学コース修了。同年4月、一般社団法人MIRAI 認定栄養ケア・ステーションほほえみーるに入社。現在に至る。



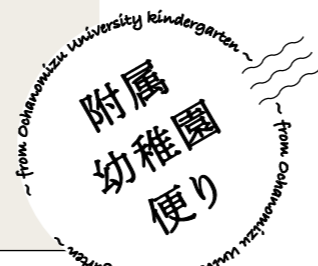
新しい挑戦を後押ししてくれそうです

発展途上のフィールドが、

Masumi Eda

# 附属学校園からの お知らせ

## “つながり”を大切にする暮らし



幼児期は、生活の場や人・モノとの関係を広げていく大切な時期です。

また、遊びを通して様々な体験を積み重ね、その後の人格形成のかけがえのない基盤となっていきます。

この号では、人との出会い・つながりに着目して、幼稚園の暮らしをお伝えします。

子どもたちが入園してまず出会う教師たちは、一人ひとりの不安や戸惑いを丁寧に受け止め、あるときは抱っこしたり、そっと横並びになって同じモノを見つめたり、一緒に笑ったり悲しんだりして、安心して頼れる存在になります。

そうして子どもたちは、他の人やモノ、体験に自ら関わろうとしていきます。

友達とのつながりが増えてくると、思い通りいかない、気持ちが伝わらない、言い合いになるなど、いろいろな感情体験をするでしょう。教師や周りの子どもたちに見守られ、支えてもらいながら、自ら表現の仕方を調整・工夫するようになっていきます。

その子なりのペースで人とのつながりが育まれ、「違いや多様性を認め合いながら、仲間と共に丁寧に作りだす」暮らしに結びついていくのです。

さて、子どもが安心して園生活を送るためには、保護者が安心して幼稚園とつながり、園の教育を理解し協力していただくことが大事だと考えます。



いろいろな人とのつながり



海外からも大勢、参観に見えます。ポルトガルの教育使節団の方に、手遊びを教えてもらいました。



幼稚園のお山で。ナーサリーの子どもたちに、葉っぱや実のスープをふるまっています。



萩山にある大学の畑にて。畑の岩崎さん、年長の親子みんなで、ジャガイモを掘っています。



大学秘書室や高校、守衛室などにも、ジャガイモを届けに行きました。



附属中学校から「梅干し」などをいただいたお礼に、ジャガイモを届けました。

園では2020年度「保育手帖その1」を発刊し、現在は「その3」まで入園前の保護者に届けています。「その1」は、入園前や2歳児を弟妹にもつ保護者の声をもとに作成。その後も発刊ごとに、保護者の声を次の号に盛り込みました。



保護者の声を活かすための取組として、「ホットモタイム」という副園長と保護者たちとの語り合いの場、保護者懇談会での保護者グループ討議を行っています。また、学年ごとに保護者に提示する「前週の様子」(A3一枚。写真や担任のコメント付き)に対して、保護者が付箋で感想や質問を寄せた声も活かしています。

これらの取組は保護者と幼稚園・保護者同士の出会いを生み、我が子同様他の子どもやその保護者とも温かいつながりが自然に生まれています。また「ホットモタイム」は、異学年の保護者が集まることで、先の見通しをもて「今を焦ることはない」と感じたり、以前のことを思い出して「少しずつ変わってきている」と成長を実感したりすることにつながります。

幼児期の安心・安定した人とのつながりは、健やかな成長を保障し、社会で暮らすための礎、社会の一員としての自覚を育むことでしよう。

## 附属学校園での出来事 2023年7月～9月

Jul. 7

### 附属高等学校

- 保護者会(1～3年) ● 学力テスト(1～2年)
- お茶大英語によるサマープログラム
- 終業式

### 附属中学校

- 帰国生保護者の会
- 第1回学力テスト(3年)
- 学年別保護者会 ● 終業式
- 帰国編入検定、発表
- オープンスクール

### 附属小学校

- 避難訓練 ● 個人面談
- 林間学校(裏磐梯(6年)) ● 終業式

### 附属幼稚園

- 親子で遊ぶ日(5歳児) ● セタ
- 誕生会(7月・8月合同) ● 終業式

### いずみナーサリー

- セタ ● 水遊び
- 避難訓練(地震・水遊び中)

### こども園

- セタ・7月誕生会 ● 水遊び・プール遊び
- 歯科衛生指導 ● 避難訓練・安全指導
- 終業式・8月誕生会
- 1号・夏季休業開始
- 1号登録、2号、3号・夏の保育開始
- 夏まつり

### 附属高等学校

- お茶大夏の研修会
- (関東地区SSH指定
- 7女子高校等研究交流会)
- 学力テスト(3年)

### 附属中学校

- 工場見学会
- 帰国児童入学検定
- 林間学校(八ヶ峰(5年))

### いずみナーサリー

- 水遊び
- 避難訓練(地震・夕方)
- 夏野菜カレーパーティー

### こども園

- 水遊び・プール遊び
- 避難訓練・安全指導
- 1号・夏季休業終了
- 1号登録、2号、3号・夏の保育終了

### 附属高等学校

- 始業式 ● 第II期教育実習
- 第2回学校説明会(Web配信)(3月まで)
- 文化祭

### 附属中学校

- 始業式、一斉下校訓練
- 第II期教育実習
- 第2回学力テスト(3年)
- 自主研究発表発表会
- 生徒祭

### 附属小学校

- 始業式
- 不審者対応訓練
- 栄養教育実習
- 水泳学習 終了

### 附属幼稚園

- 始業式 ● クラス懇談会
- 教育実習(後期2週間)
- 避難訓練
- 誕生会(9月)
- PTAつぼみ会主催講演会

### いずみナーサリー

- 水遊び終了 ● 個人面談
- 避難訓練
- (首都圏大地震・引き渡し及び安全確認訓練)

### こども園

- 始業式
- 第1回ワクワクデー
- 遠足(5歳児)
- 避難訓練・安全指導
- お月見・9月誕生会

Aug. 8

Sep. 9



# Ochadai GAZETTE

vol.275  
Autumn  
2023

発行日 / 2023年11月6日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報担当

電話：03-5978-5105 FAX: 03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、  
本学ホームページに掲載されています。  
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学は  
2025年に創立150周年を迎えます



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University